

# 第1章 調査概要

## 報告書のみかた

- (1) 比率は全て、各設問の不明・無回答を含む集計対象者数（付問で設問該当対象者）に対する百分比（%）を表している。1人の対象者に2つ以上の回答を求める設問では、百分比（%）の合計は、100.0%を超える。
- (2) 百分比（%）は、小数点第2位を四捨五入し、小数点第1位までを表示した。四捨五入の結果、各回答の百分比（%）の合計は100.0%に一致しない場合がある。また、個々の実数を合計して算出した比率（『関心がある』などの合計した数値）と、個々の比率（グラフ中の数値）を合計した数値とは一致しない場合がある。
- (3) 図表中の「N」とは集計対象者総数（あるいは、分類別の該当対象者数）を示し、比率は「N」を100.0%として算出した。
- (4) 図表中の「-」は回答がなかった項目である。
- (5) 回答者数は、各地域の抽出率の差を調整するため、回収数にウェイトを加重し規正した。これは標本数の配分にあたり、湖西地域は他の6地域（大津、湖南、甲賀、東近江、湖東、湖北）の2倍のウェイトを加重して抽出したためである。

## 1. 調査目的

県政全体に関する満足度と県政の当面する主要課題等をテーマに選び、県民の意識・意向を調査し、今後の県政をすすめるうえでの基礎資料とする。

## 2. 調査期間

平成23年6月7日～平成23年6月30日

## 3. 調査設計

調査地域	滋賀県内全域
調査対象	県内在住の満20歳以上の男女個人(外国人を含む)
標本数	3,000人
抽出台帳	選挙人名簿および外国人登録原票
抽出方法	層化二段無作為抽出法
調査票	日本語および翻訳調査票

## 4. 調査方法

郵送式・無記名方式

## 5. 調査機関

株式会社 地域未来研究所

## 6. 調査項目

- (1) 県政全体に関する満足度について
- (2) 県の広報・広聴活動について
- (3) 「地域の自主性及び自立性を高めるための改革」と広域行政について
- (4) 地震や風水害などについて
- (5) 消費生活について
- (6) 琵琶湖の生態系について
- (7) 県内の中小企業の振興について
- (8) 運動・スポーツ活動について

## 7. 標本構成

### (1) 層化

県内の市町を7地域に分類した。

大 津	大津市
湖 南	草津市、守山市、栗東市、野洲市
甲 賀	湖南市、甲賀市
東近江	近江八幡市、東近江市、日野町、竜王町
湖 東	彦根市、愛荘町、豊郷町、甲良町、多賀町
湖 北	長浜市、米原市
湖 西	高島市

### (2) 標本数の配分

各地域規模の層における20歳以上の人口を基に抽出ウェイト[(3)調査結果の集計表示方法を参照]により、3,000人の標本数を比例配分した。

	推定母集団	標 本 数	地 点 数
大 津	269,069	693	46
湖 南	244,749	631	44
甲 賀	118,784	305	21
東近江	187,705	483	34
湖 東	122,966	317	23
湖 北	133,090	343	23
湖 西	44,297	228	16
合 計	1,120,660	3,000	207

注1) 抽出地点は、平成17年度国勢調査時に設定された調査区を使用した。

注2) 推定母集団は、以下のように算出した。

日本国籍のものは、平成22年3月31日現在の住民基本台帳登録者数をベースに算出した。

外国籍のものは、平成22年12月31日現在の外国人登録者数をベースに、「平成22年版在留外国人統計」(平成21年12月末現在)の成人比率で補正し、算出した。

### (3) 調査結果の集計表示方法

各地域とも統計的な信頼度が確保できるように、以下の通りの標本数と抽出ウェイトとしている。

地域別の抽出数が異なるため、有効回収数に集計ウェイトを加重し補正した。調査結果は、この「規正標本数」を基数として集計を行なった。

地 域	抽 出 ウェイト	標 本 数	有効回収数	集 計 ウェイト	規正標本数
大 津	1 / 2	693	388	2	776
湖 南	1 / 2	631	352	2	704
甲 賀	1 / 2	305	170	2	340
東近江	1 / 2	483	265	2	530
湖 東	1 / 2	317	165	2	330
湖 北	1 / 2	343	182	2	364
湖 西	1	228	134	1	134
不 明	—	—	8	—	8
合 計	—	3,000	1,664	—	3,186

## 8. 調査票の回収結果

有効回収数は1,664件となり、有効回収率は全体で55.5%となった。

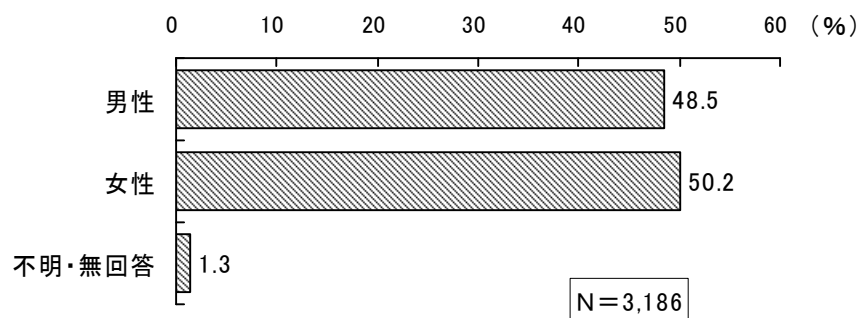
地 域	標 本 数	有 効 回 収 数	有 効 回 収 率
大 津	693	388	56.0%
湖 南	631	352	55.8%
甲 賀	305	170	55.7%
東近江	483	265	54.9%
湖 東	317	165	52.1%
湖 北	343	182	53.1%
湖 西	228	134	58.8%
不 明	—	8	—
合 計	3,000	1,664	55.5%

## 9. 回答者の属性

ここでは回答者の属性について、性別、年代別、地域別、職業別、勤務地（通学地）別、居住歴別にみた結果を示す。

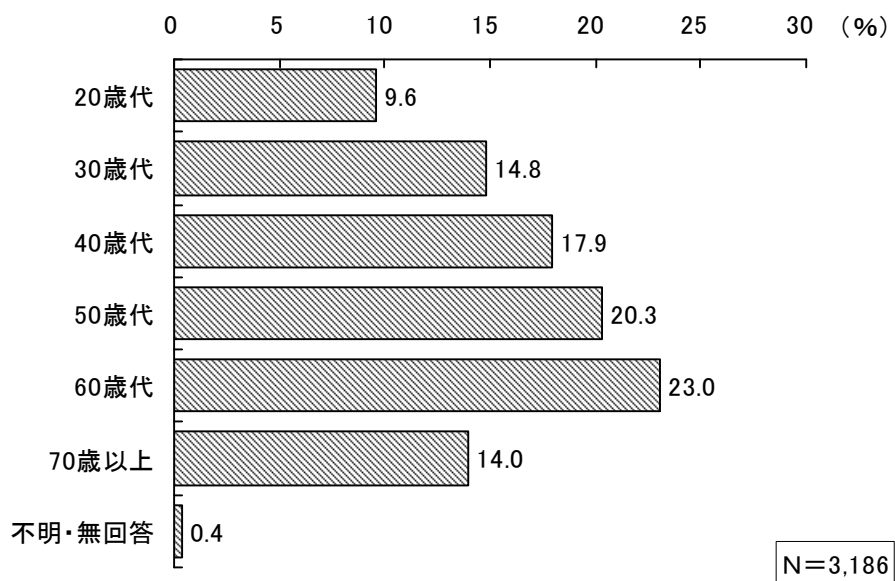
### （1）性別

回答者の性別は、「女性」が50.2%となっており、「男性」（48.5%）よりも高くなっている。



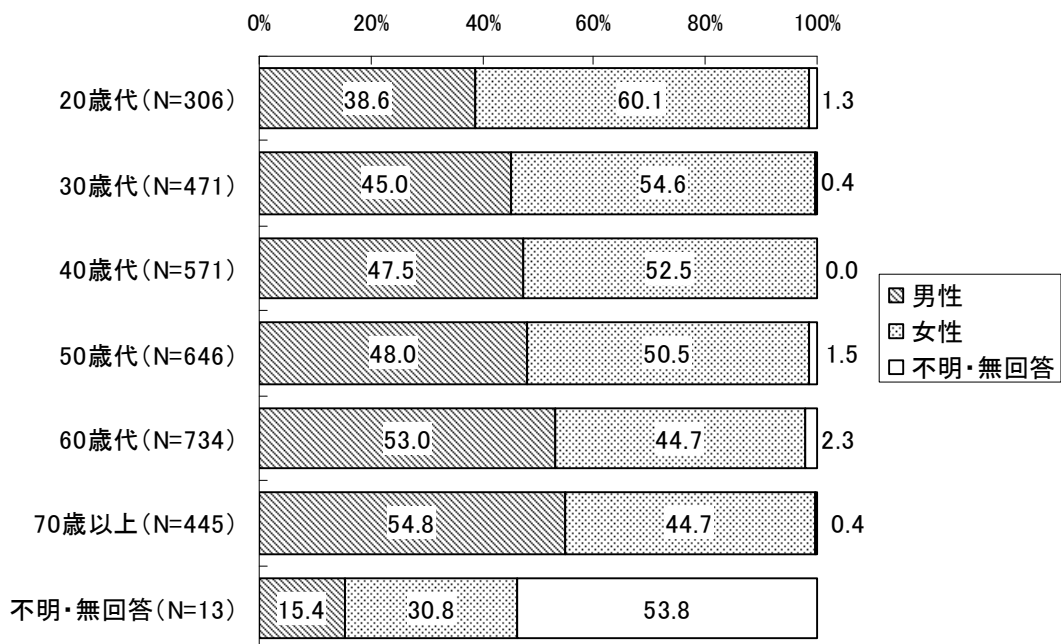
### （2）年代別

年齢は、「60歳代」（23.0%）、「50歳代」（20.3%）が多く、「40歳代」（17.9%）「30歳代」（14.8%）が続いている。



### (3) 性・年代別

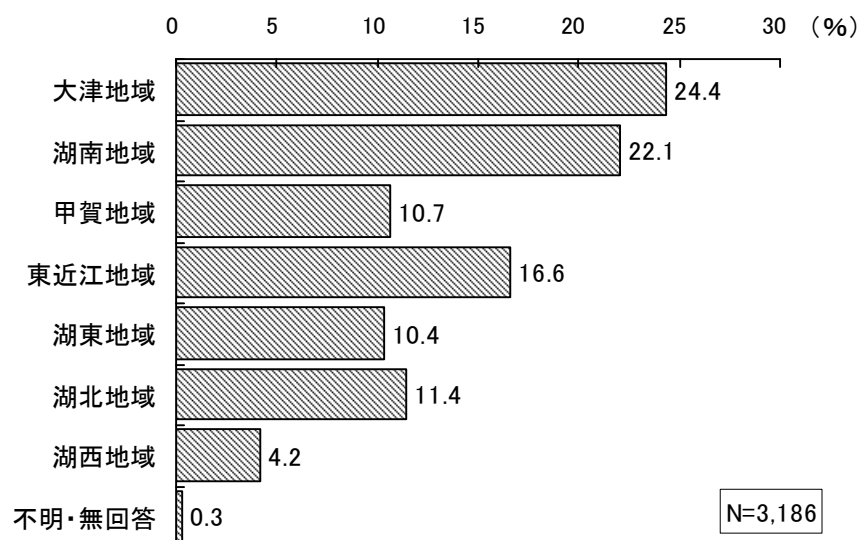
性・年代別の構成をみると、「20歳代」、「30歳代」、「40歳代」、「50歳代」では男性に比べて女性の割合が高くなっている。このうち「20歳代」では女性が60.1%と男性を21.5ポイント上回っている。一方、「60歳代」、「70歳以上」では、男性の割合のほうが高くなっている。



	規 正 標本数 (総数)	男性 (%)	女性 (%)	不明・ 無回答 (%)
総 数	3,186	48.5	50.2	1.3
20歳代	306	38.6	60.1	1.3
30歳代	471	45.0	54.6	0.4
40歳代	571	47.5	52.5	0.0
50歳代	646	48.0	50.5	1.5
60歳代	734	53.0	44.7	2.3
70歳以上	445	54.8	44.7	0.4
不明・無回答	13	15.4	30.8	53.8

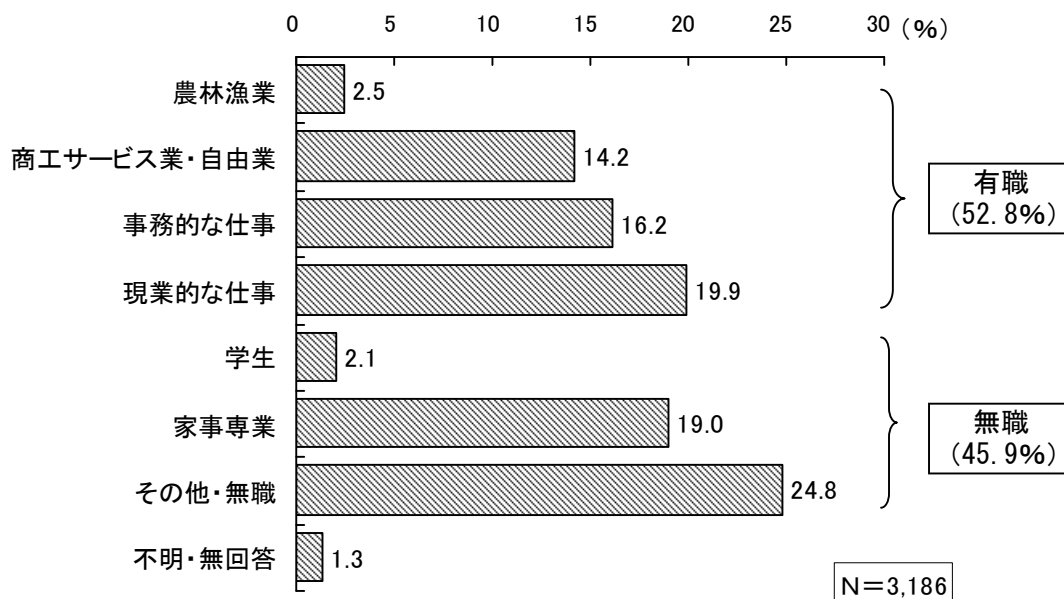
#### (4) 地域別

居住地域は「大津地域」が24.4%と最も多い。次いで「湖南地域」が22.1%、「東近江地域」が16.6%で続いている。



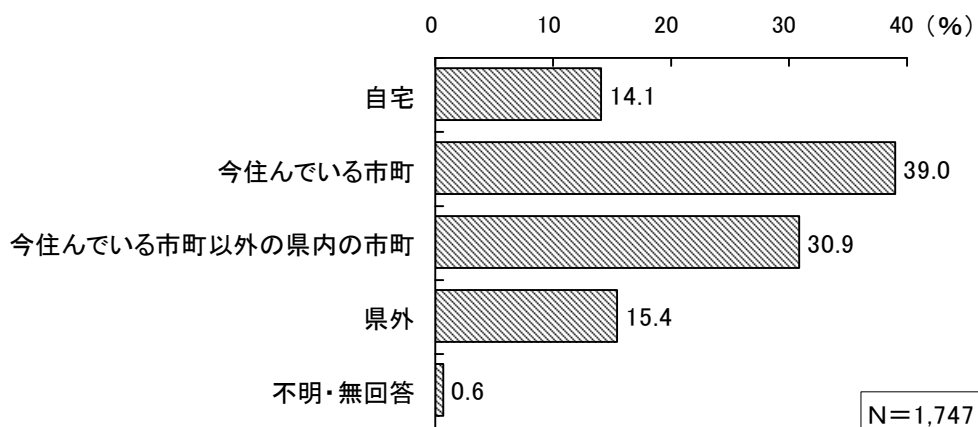
#### (5) 職業別

職業別では、有職は52.8%となっており、そのうち「現業的な仕事」(19.9%)が最も多く、次いで「事務的な仕事」(16.2%)が多い。これに対して無職は45.9%であり、そのうち「その他・無職」(24.8%)が最も多く、「家事専業」(19.0%)が続いている。



## (6) 勤務地（通学地）別

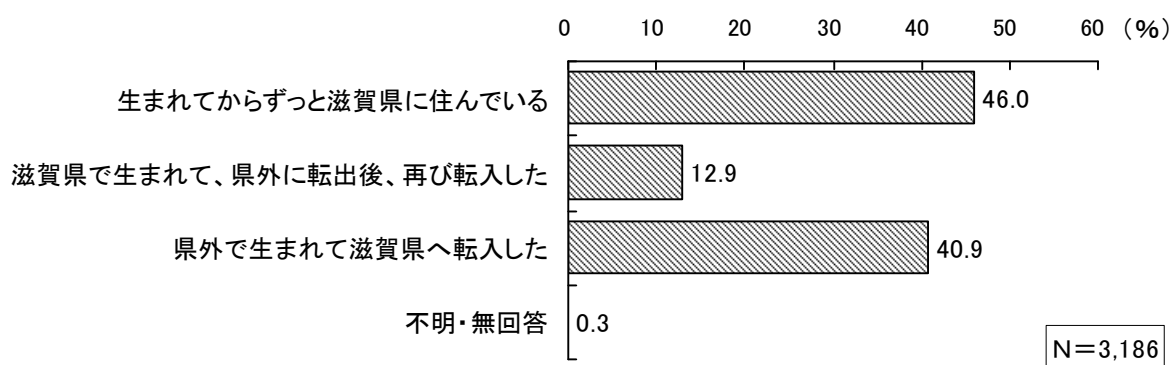
勤務地（通学地）は、「今住んでいる市町」が最も多く 39.0%となっている。次いで、「今住んでいる市町以外の県内の市町」（30.9%）が多い。



## (7) 居住歴別

居住歴は、「生まれてからずっと滋賀県に住んでいる」が 46.0%で最も多く、次いで「県外で生まれて滋賀県へ転入した」（40.9%）が多い。

また、「滋賀県で生まれて、県外に転出後、再び転入した」という人と「県外で生まれて滋賀県へ転入した」という人の居住年数は、「10年以上」が最も多く 77.0%を占めている。



### (転入後の居住年数)

